

音楽科 学習指導案

対 象 第2学年C組 35名

授業者 主任教諭 勝山 幸子

会 場 音楽室

1 単元（題材）名 曲想と音楽の構造との関わりに注目して、「交響曲第5番」のよさを味わおう

2 単元（題材）の目標

- ・「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の、曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。
- ・「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、よさや美しさを味わって聴く。
- ・「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。

3 単元（題材）の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の、曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	① 「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の音色、リズム、旋律、テクスチュア、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」のよさや美しさを味わって聴いている。	①「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 指導観

(1) 単元観

本題材は、「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」（ベートーヴェン作曲）を取り上げ、学習指導要領の指導事項「B 鑑賞」ア（ア）、イ（ア）を扱う題材である。「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の音色（オーケストラ楽器の音色や響き）、リズム（動機のリズム）、旋律（第1主題・第2主題の旋律、短調の響き、長調の響き）、テクスチュア（動機の重なり方）、形式（ソナタ形式）などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲想と音楽の構造との関わりについて理解し、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」のよさや美しさを味わって聴く。中学校3年間で扱う鑑賞教材には、標題音楽が比較的多く、絶対音楽は少ない。これまでの授業で扱ってきた絶対音楽は、「六段の調」（第1学年）、「フーガト短調」（第2学年）の2曲のみである。そのため、本題材で絶対音楽に親しみ、魅力を味わうことの意味は大きいと考える。

(2) 生徒観

音楽や鑑賞に対して関心の高い生徒が多いクラスである。鑑賞の学習では、音楽の構造を聴き取る活動と、曲想（情景や心情）などを感じ取る活動を行い、聴き取ったことと感じ取ったこととを関わらせて音楽を聴き深めていくことを大切にしている。生徒には、音楽の構造を聴き取ることが得意な生徒と、曲想（情景や心情）などを感じ取ることが得意な生徒がいるが、はじめから音楽の構造と曲

想とを関わらせて説明できる生徒はまだ少ない。そのため、クラス全体で意見を出し合い、他者の意見も参考にしながら、音楽の構造と曲想とを関わらせて理解や思考を深めるようにする。ワークシートやタブレット端末に自分の意見をたくさん記入することはできるが、挙手をして発言する生徒は少なく固定化しがちである。理解や思考を深めるために、多様な意見を引き出すことが課題である。ワークシートへの記入の方が自分の意見を述べやすい生徒と、タブレット端末への入力の方が自分の意見を述べやすい生徒と、それぞれである。

(3) 教材観

ベートーヴェン作曲「交響曲第5番 ハ短調」は、1808年に初演され、その後、多くの作曲家に影響を与えた作品と言われている。この交響曲は、4つの楽章で構成されている。作曲上の特徴として、第1主題冒頭の「動機のリズム」が全楽章にわたり反復・変化しながら用いられていることが挙げられる。第1楽章は、提示部を反復したり、やや長い Coda を有したりするが、典型的なソナタ形式と考えられる。

(4) 本単位におけるタブレット端末の活用について

本時の学習では、学習クラウド「まなびポケット」にあるアプリケーション「スクールタクト」の活用によって、学びに向かう力の4つのキーワードのうち、特に**連携・協働**する力の育成を目指す。具体的には、以下の3つの場面で活用する。(1) 自分の意見を整理し、さらに他者の意見を参考にし、理解や考えを深めたりまとめたりする場面。(2) 個人の意見をクラス全体に示し、共有する場面。(3) 生徒の記入状況を教師が把握し、個別指導に役立てる場面。

5 単元の指導計画と評価計画（全2時間）

	目標	学習内容・学習活動	評価規準（評価方法）
第1時	「交響曲第5番ハ短調 第1楽章」の、曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。	① 「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」に用いられる楽器を理解する。 ② <u>第1楽章提示部の「動機のリズム」の反復を聴き取る。</u> ③ <u>「ソナタ形式」について理解する。</u>	アー① (行動観察、発言、ワークシートの分析)
第2時	「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、よさや美しさを味わって聴く。 「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の曲想と音楽の構造との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。	④ <u>「ソナタ形式」を理解し、曲想との関わりについて考える。</u> ⑤ <u>「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」に対する自分なりの価値意識をもつ。</u>	イー①（行動観察、発言、ワークシートの分析） ウー①（行動観察、発言、ワークシートの分析）

※「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、題材末の第2時で評価結果を総括し、記録に残す評価とするが、第1時からの取り組みの状況を継続的に評価する。

8 本時（全2時間中の第2時）

（1） 本時の目標

- ・「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、よさや美しさを味わって聴く。
- ・「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の曲想と音楽の構造との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。

（2） 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
2分	○タブレットの準備の確認	・休み時間にスクールタクトを開いておくよう声かけを行い、確認する。	
18分	○「ソナタ形式」を理解し、曲想との関わりについて考える。 ・ <u>前時に記入のタブレット端末を見ながら、提示部、展開部、再現部、Coda ごとに区切って聴き、それぞれの曲想と音楽の構造との関わりについて考え、追加記入する。</u> ・提示部と再現部の冒頭を比較聴取し、相違点について、意見交換する。	・特徴的な音楽の構造（知覚したこと）から着目する生徒、特質や雰囲気（感受したこと）から着目する生徒、知覚したことと感受したことを関わらせて説明できる生徒など様々である。この場面では、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることを大切にしたい。 ・生徒の記入状況をチェックし、必要に応じて個別に助言する。	
28分	○「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」に対する自分なりの価値意識をもつ。 ・曲想や音楽の構造の変化を感じ取りながら、第1楽章を通してDVD視聴し、 <u>曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、タブレット端末に批評文を書く。</u> ・意見交流し共有する。（ペア、全体） ・「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」のよさや美しさを味わいながらDVD視聴し、 <u>自分のタブレット端末の批評文を見直してまとめる。</u>	・これまでの学習内容を生かして、批評文を書くよう助言する。 ・書くことが苦手そうな生徒には、生徒との会話から言おうとしていることを引き出して言葉にしてあげたり、板書を見るよう促したり、箇条書きでもよいと助言するなど、個別に支援する。 ・ペアはあらかじめ決めておく。 ・他の生徒の参考となる批評文をスクリーンに映し、参考にしたり、学習内容を共有したりできるようにする。	イー① （行動観察、発言、ワークシートの分析） ウー① （行動観察、発言、ワークシートの分析）

2分	○題材のまとめ ・音楽には、標題音楽と絶対音楽があることを知る。 ・本題材で、絶対音楽であるこの曲のよさや美しさを味わえたことを確認する。	・批評文を書く作業を続けた生徒もいると予想されるが、ここでは一度タブレット端末を閉じて、題材のまとめに意識が向くように促す。	
----	---	--	--

(3) 授業観察の視点

- ・「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の曲や演奏に対する評価とその根拠について、他者と意見交流することで、より考えを深め、よさや美しさを味わって聴くことができているか。
- ・「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組んでいるか。
- ・タブレット端末を効果的に活用することができているか。

校内研究 I C T 機器活用指導案

教科・学年・組・授業者	音楽科 3年 B組 勝山 幸子
授業日時・場所	令和2年 11月 10日 2校時 音楽室
単 元 名	ギターに親しもう
単元の目標	ギターの音色や響きと奏法との関わりを理解し、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な技能を身に付ける。
単元の指導計画	1 ギターに関心をもつ。 2 ギターの音色や響きと奏法との関わりを理解する。 3 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な技能を身に付ける。
本時の目標	ギターの音色や響きと奏法との関わりを理解する。
本時の評価	ギターの音色や響きと奏法との関わりを理解している。
本時の授業形態	☒ 一 斉 ☐ 少人数 ☐ 習熟度別 ☐ グルーブ ☐ 個 別
タブレット端末の活用	
授業場所	☐ 普通教室 ☐ 学習室 ☐ 視聴覚室 ☒ その他（ ）
活用場面	☐ 導 入 ☒ 展 開 ☐ まとめ ☐ その他（ ）
活用機器	☒ 学習者用タブレット ☐ 指導者用タブレット ☐ 電子黒板 ☐ 実物投影機 ☐ その他（ ）
活用 アプリケーションなど	☐ ワープロ ☐ 表計算 ☐ プレゼンテーション ☐ データベース ☒ 画 像 ☒ 動 画 ☐ カメラ ☐ 作 画 ☐ 編 集 ☐ デジタル教科書 ☐ NHK for school ☐ その他（ ） ☐ まなびポケット ☒ スクールタクト ☐ AIAIモンキー ☐ コラボノート ☐ イングリッシュセントラル ☐ その他（ ）
活用形態	☒ 1人1台 ☐ 学習班に1台 ☐ その他（ ）
タブレット端末活用の ねらい・効果	・ギターの奏法、音階の位置、コードの押さえ方などを、生徒がそれぞれ見たいタイミングで見ることができる。 ・タブレットに入力することで、ペーパーや筆記用具など使う道具を減らす。

授業展開例

	学習内容 生徒の学習活動	I C T 活用場面 I C T 活用のポイント	○指導上の留意点 ☆評価
導 入	1 前時の復習 ・ギターの構造 ・正しい姿勢 ・基本的な奏法		・タブレットを起動させ、スクールタクトを開いてから、椅子の下に置くよう指導する。 ・板書に前時の学習内容をまとめておく。
展 開	2 ギターの音色や響きを知覚・感受する。 ・「イエローサブマリン」をアポヤンド奏法とアルアイレ奏法で弾く。 ・コードの押さえ方を知り、ストローク奏法で弾く。 ・ペアで互いの演奏を聴き合いアドバイスする。	・タブレットを使い、ギターの奏法、音階の位置、コード押さえ方など、見たいタイミングで見確認しながら練習する。	・タブレットの不具合がある生徒に対応する。 ・音色や響きと奏法との関わりに生徒の意識が向かうような声掛けを繰り返し行う。 ・生徒の奏法等を観察し、必要に応じて個別指導や全体指導を入れる。
	3 ギターの音色や響きと奏法との関わりを理解する。 ・「イエローサブマリン」をどのように演奏したいかについて弾いて試しながら考え、タブレットに記入する。	・スクールタクトで、表現を工夫したい場所を指定して、どのように演奏したいかについての記入ができるようにする。	☆創意工夫 ギターの音色や響きと奏法との関わりを理解している。
ま と め	4 次時の予告 ・次時は実技テストであることを知り、本時の学習内容を意識しながら「イエローサブマリン」を演奏する。		